

# 令和5年度 西伊豆町教育行政の基本方針

## 静岡県教育振興基本計画 2022～2025年度

### 基本理念 「有徳の人」の育成 ～誰一人取り残さない教育の実現～

一人ひとりの中にある「才」と「徳」を高めることを通じ、  
本県の未来を担う「有徳の人」の育成を社会全体で進める。

#### 「有徳の人」とは

- 知性・感性・身体能力など自らの個性に応じて「才」を磨き、自立を目指す人。
- 多様雄な生き方と価値観を認め、自他を大切にしながら「徳」を積む人。
- 「才」を生かし「徳」を積み、社会や人のために貢献する「才徳兼備」の人。



## 西伊豆町教育大綱 2023～2026年度

### 基本理念 『夢を育み、ふるさとを語れる人づくり』

社会や人のために貢献する人づくりを学校や家庭、地域の社会総がかりで  
進める。

### 基本目標 『自ら考え・行動する人を育てる』

異なる価値観や個性を尊重し、助け合っていく姿勢を持って、社会や人の  
ために自分ができることを行っていく人を育て、誰もが夢や希望を持ち、  
生きがいを感じられる地域社会を目指す。



## 教育大綱に沿った教育行政の着実な推進・実践

### 令和5年度の重点目標

- 1 「ふるさと」に自信と誇りを持ち、ふるさとを大切にしたいという想いを持って困難を生き抜く力の育成。
- 2 「ふるさと」で生きることの喜びや生きがいを感じ、生涯を通して学び、スポーツや文化活動を楽しむことができる町民への支援。
- 3 教育環境の整備。  
(園や学校の教育環境の充実、給食施設の整備、園・小中学校の学びの連続性)
- 4 確かな学力の育成。(個の能力・適性に応じた学習方法。基本的な知識と技能の獲得)
- 5 豊かな心の育成。(互いの個性や考えを尊重し、他を思いやる心の育成)
- 6 国際教育の推進。(英語教育と国際理解教育の充実)
- 7 学びのセーフティネットの構築。(SC、SSW、支援員等の適切な配置)
- 8 文化・芸術、スポーツ活動の充実。(各種団体や民間事業者との連携による講座等の充実)
- 9 地域学習の充実。(ふるさと学習・地域学の促進)
- 10 子育て支援の充実。(多様なニーズに応える保育の推進)

## 令和5年度の主な取り組み

- 1 賀茂小と田子小の統合の準備を進める。
- 2 給食センターの統合の準備と施設の充実を図る。
- 3 こども園の再編等について検討し準備を進める。
- 4 既存校舎等の安全な維持管理と複式学級の課題緩和のための人的支援を行う。
- 5 学校におけるICT環境の活用を行う。
  - ① 1人1台のタブレットを用いた学習を推進し、情報活用能力及び情報モラルを育成する。
  - ② プログラミング教育を推進し、思考力や創造力、問題解決能力等を育成する。
- 6 校務支援ソフトを活用して、教職員が児童・生徒と向き合う時間を確保する。
- 7 指導主事による教職員の指導力の向上を図る。
- 8 幼児教育アドバイザーによる指導力の向上と円滑な連携を図る。
- 9 特色ある学校づくりを推進する。(学校裁量型予算)

各学校は学校経営目標や児童生徒の実態に基づき、予算の範囲内で学力・授業力向上等のための対応策、研修内容等を検討し、独自の計画を策定し実施する。

(主なメニュー)

  - ① 民間事業者の教材を用いた幅広い学習の機会を設ける。
    - 小学校におけるZ会教材の活用…国語力検定、テキスト、通信添削。
    - タブレットに導入した学習通信ソフトや学習教材ソフトの活用促進。

(ロイロノートを活用した情報活用能力の育成。ベネッセ等の教材ソフトの活用。)
  - ② 各種テストや調査を実施する。
    - NRT(全国学力標準テスト)で、生徒に定着した学力や課題を把握し、指導改善に活かす。
    - QU検査(生活満足度調べ)を学級経営に活かし、いじめや不登校の予防に役立てる。
  - ③ 社会人による講演会、学習支援、音楽鑑賞会、放課後学習、職員研修、等。
- 10 外国青年招致事業(JETプログラム)と地域おこし協力隊の活用による国際親善・理解の推進を図る。
  - ① 国際教育の充実(自治体国際化協会による)

園、小学校、中学校へのALT(外国語指導講師)3人の派遣により、外国語や外国の文化、外国の人に親しむ。
  - ② 園、小学校、中学校それぞれの段階の特性を生かした言語活動と到達目標を設定し、その流れを共通理解した教職員の指導の下で英語を使ったコミュニケーションの経験を重ね、外国の人とも積極的に関わる力を育てる。

(例) 園・低学年=聞こえた通りにまねる、動く活動。  
中学年=旺盛な好奇心を生かした簡単な言語活動。  
高学年=知的好奇心を生かした、考えて表現する言語活動。  
中学校=「聞く、話す、読む、書く」のバランスを考えた学習。

(それぞれの段階の授業計画を共有することで、不足していることや重複していること、繰り返したいことを明らかにして、指導の改善や意欲を高める。)
- 11 奉仕活動や仲間と協力して活動する体験等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。
- 12 社会教育事業の充実を図る。

CIR(国際交流員)1人を活用した外国語講座等、全ての年代の町民が活躍できるための意識啓発を図る。